

造 形

青木千恵美



タイトル：毛布#28Cor#58Chev サイズ：173×217cm
素材：羊毛 コリデール種(上部) チェビオット種(下部)
技法：紡ぎ, 織り(平織), 縫い 制作年：2017年



織物の設計 上部 経糸番手 3.0~4.2 経糸密度4.0本/1cm 緯糸番手 3.8~4.2
下部 経糸番手 4.4~4.9 経糸密度4.0本/1cm(ベース) 8本/1cm(ライン) 緯糸番手4.7

継続の制作テーマ「異なる織物を取り合わせる」において、今回の制作では、「ライン(線)」がキーワードとなった。

茶色の織物(上部)は柔らかく、フェルトのような質感で、幅27cmの織物を4枚並べ、剥ぎ合わせている。剥ぎ合わせ前の織物の設計では、中央に明るい色のラインを構成した。

細長く織った織物を裁断し、並べて剥ぎ合わせることにより、ラインは縞模様へと展開された。

強く、はっきりとした印象の縞模様に対して、異なりと共通性の要素を併せ持つ織物を織り、取り合わせてみたいと考えた。「異なり」と「共通性」、その間を行ったり来たりするようにして、取り合わせる織物の設計を慎重に進めた。

僅かに見て取れる濃淡の違いと経糸密度の

違いによる縞模様を構成する。経糸の密度を高め、ラインを際立たせる。さらに織物の端には共通性の要素として、茶色の細かいラインを構成。幅37cmの織物3枚を剥ぎ合わせる。

グレーの織物(下部)は薄さの中に弾力が伝わる。

茶色の織物(上部)とグレーの織物(下部)を剥ぎ合わせ、一枚の布に仕上げた。

素材の羊毛のそれぞれを生かし合わせることににおいては、部分と全体との関係を俯瞰して見るが必要とされ、異なる2種類の織物が調和し、ひとつになる状態を求めた。また、剥ぎ合わせでは、織物の重なり幅も全体の印象に関わり、僅かな違いが全体の印象を変える。部分は全体に響く。

感覚を研ぎ澄ませて響きを感じ、調和を求めたい。

田中洋江



左

タイトル：光 x

サイズ：73×100×5cm

素材：ジュート,ラミー,ゴートヘア,板

技法：オリジナルテクニック

制作年：2016年

下

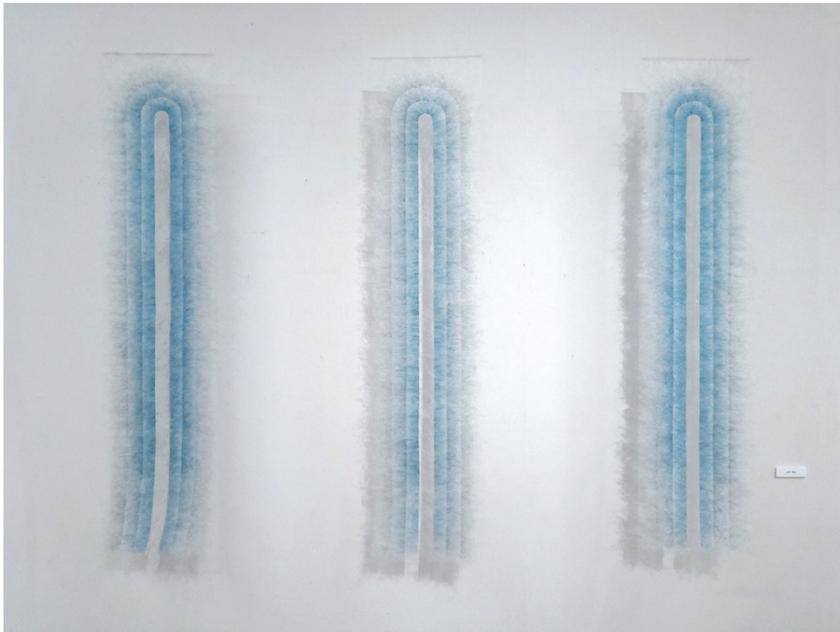
タイトル：光 xi

サイズ：30×140cm 3点

素材：ジュート,ラミー,ゴートヘア

技法：オリジナルテクニック

制作年：2017年





「光 xi」部分
布と壁面にできた影

繊維を用いて、「あること」と「ないこと」の間の問題をテーマに制作している。図版は、このテーマの中の「光」シリーズ10, 11 作目である。

「3. 11」東日本大震災の日、私は東京にいた。亡くなった方や苦しんだ（今も苦しむ）方に比べれば苦しみは小さい筈だが、私の作風は変わった。人ばかりではない。亡くなった動物たち、今も苦しむ動物たちのことを思いながら自分ができることは何かを考えてきた。その動物たちや、世界中の恵まれない動物たちのために祈る日々が続いたことで、

「希望の光」に行き着いた。光シリーズを制作することは、祈りである。「光 x」はパーツを並べかえるうちに十字架の形となった。

「光 xi」は、門のようにこちらから向こうへ抜けるイメージである。

これらはインスタレーションとして壁に近い空間に設置する。この布には細かい穴があり、空気は布を通過してこちら側と向こう側を自由に行き来する。照明は重要な要素であり、光のあて方によって極薄い布によってできる影が2枚目の布のように見える。